

昨日、こんにちは。囑託員の村上です。この夏は各地で豪雨災害が発生し、青森市でも台風の接近・通過によって激しい雨が降りましたね。特に、8月30日は台風10号の影響により山間部で大雨となりました。

この大雨の影響で堤川・駒込川の水位が上昇したことから、8月30日から31日にかけて洪水予報（氾濫注意情報）が出され、駒込川の流域では道路の冠水や住宅の床下浸水といった被害が発生しました。現在、こうした被害を軽減するため、駒込川上流で駒込ダムの建設が進められているところですよ。

さて、今回の大雨では堤川においても水位が上昇しましたが、避難勧告の判断の目安となる「避難判断水位」を超えることはありませんでした。これは、上流の下湯ダムで川の水をため込み、下流に流れる水量を調節することができたからです。「barrage journal（駒込ダム建設所新聞）第108号」（平成28年9月 東青地域県民局地域整備部駒込ダム建設所）によると、ダムに流入する水は過去最大の量となり、ダムがなければ堤川の水位は「はん濫危険水位」を大きく上回ったと想定されるということです。



昭和44年の台風9号による洪水被害
(青森市市長公室調整課編『70 市勢要覧』)

下湯ダムは堤川上流の荒川地区にある多目的ダムで、昭和63年（1988）に完成しました。堤川の流域では昭和10年の豪雨、昭和33年の台風22号、昭和44年の台風9号などによる洪水で大きな被害が発生しており、抜本的な治水対策が求められてきました。また、昭和40年代には青森市で都市化の進行による地盤沈下が問題となり、その対策として地下水のくみ上げが規制されたことから、新しい水源として堤川水系を利用することが検討されました。加えて、農地へのかんがい用水の確保も必要でした。そうしたことから下湯ダムの建設が計画されたのです。建設に向けた予備調査は昭和42年に始まり、昭和49年から14年かけて工事が進められました。



下湯ダム

ダムが建設された場所にはかつて下湯温泉がありました。下湯温泉までは市営バスの下湯線が運行されており、青森市が発行する観光案内に紹介される人気の温泉地でした。残念ながらダム工事のため温泉旅館はなくなり、跡地は「あやめ公園」となりました。



下湯温泉

(『あおもり』青森市経済部商工課、昭和 38 年)

これからの季節、下湯ダム周辺では美しい紅葉を楽しむことができますので、ぜひ足を運んでみてください。

※今回の内容は『青森県土木五十年史』(平成 12 年 青森県土木部)『下湯ダム工事誌』(平成元年 青森県土木部河川課)、青森地方気象台ホームページなどを参考にしました。